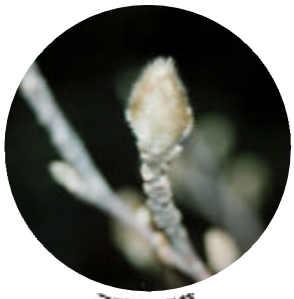
株式会社 地域環境計画

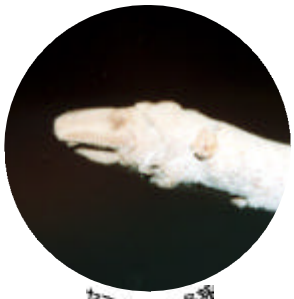
2002. WINTER
No.13

News Letter

春を待つ冬芽

ソメイヨシノの冬芽


コブシの冬芽


ヤマウルシの冬芽

アラカシの冬芽

樹木の種類を見分けるには、普通は花や果実、葉を見ます。しかし、花や果実、葉は一年中見られるわけではありません。花や果実どころか、葉がすっかり散ってしまった冬の時期にでも、植物調査を行うことがあります。このような時に、「冬芽」が樹木の種類を見分けるのに役立ちます。

冬芽とは、寒くて樹木が生育に適さない季節に、花や葉、枝などが一時生長を休んで休眠する時に、次の生長にそなえて準備された芽のことです。この冬芽は、冬の寒さに耐えるためにいろいろな手段で自分の身を守っています。

冬芽には、枝の先端に作られた「頂芽」と枝の側方につく「側芽」があります。普通、頂芽は側芽より大きく樹種の特徴が最もよくあらわれます。

サクラの冬芽などは、茶色の芽鱗（がりん）とよばれる魚のうろこ状の小片に包まれていて、「鱗芽（りんが）」と言われます。芽鱗は、寒さや乾燥から芽を守る役割をしています。芽鱗の数や形が樹木の種類によって決まっています。

コブシやヤナギの仲間は多数の毛をもつ芽鱗に被われていて、いかにも暖かそうな姿をしています。また、トチノキのように粘液で被われているものもあります。

一方、ヤマウルシの冬芽には芽鱗がありません。このような冬芽を「裸芽（らが）」といい、幼い葉がむき出しの状態になっています。この裸芽もよく見てみると、濃褐色の毛で被われていて寒い冬に備えています。冬芽を持っているのは、冬に葉を落とす落葉樹だけではなく、常緑樹の枝先や葉の付け根でも春を待っています。アラカシのようにその多くはたくさんの芽鱗を持っています。常緑樹にとっても冬の寒さは厳しいようです。

このように、常緑樹やすっかり葉を落としてしまった落葉樹の冬の枝先では、それぞれに違った個性のある冬芽を持っていて、いろいろな工夫をして厳しい冬を乗り切っているようです。冬の樹木の姿は、花や果実、紅葉が見られる春から秋のように華やかさには欠けるものの、枝先では春を待つ冬芽がみられ、また違った楽しみがあります。

（大阪支社自然環境調査室・山崎香陽子）

目次

エッセイ　春を待つ冬芽 ―― 1
Reports　全国雑木林会議　神戸大会 ―― 2
マンガ　調査員物語　金の長グツ賞とは・・・？の巻 ―― 4
Reports　生態工学における雑木林と市民活動 ―― 5
Information　『ネイチャー・ボード』シリーズのご紹介 ―― 6
ある日のフィールドノートから　エノキの木の下で ―― 8